

高野一伴

三

夾

典故

和	書	門	類
三	四	八	三
一	二	三	〇
一	九	〇	〇
冊	架	函	號

庫	文	閣	內
九	二	三	四
一	六	一	九
冊	架	函	號

內閣文庫	
番號	和 34834
冊數	19(3)
函號	192 449

共十九

典故類



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak 2007 TM: Kodak



高野一伴

二

共

元禄二年 年

一 四月廿二日 口書

一 四月廿二日 口書

但録合有

一 四月廿二日 口書

一 四月廿二日 口書

一 四月廿二日 口書

一 四月廿二日 口書

但録合有

一 四月廿二日 口書

行人方

一通

一通

一通

一通

一通

一通

一通

此經の初巻の法を以て以人方と云は法學僧方と
初巻の法を勤來石録

一 檢校の先以人難涉の法を勤來石録
寫經の如く男の事好の如く古來の勤來石録
沈校の如く男の事好の如く古來の勤來石録
檢校の九月檢校判形の如く申以りて
此の沈文の如く古來の事實又三年の如く信
既の如く在る如く色、正身録の如く改め古法を勤

東運院中

期洋及學僧方と云勤來石録
正身録の如く規條の如く學僧方と云
勤來石録

真言宗中

學僧方、書寫、雲雲、如く細く

公儀。書上内壇場伽藍之注。其注は、
今度は、
公儀書上是

公儀書上是

公儀書上是

公儀書上是

公儀書上是

公儀書上是

公儀書上是

末通院中

一、公儀書上内壇場伽藍之注。其注は、

公儀書上内壇場伽藍之注。其注は、

公儀書上内壇場伽藍之注。其注は、

公儀書上内壇場伽藍之注。其注は、

能得旨上御成子(前宣)夏中多澄新度
坂中内紀及中事行(所)今一條書若法
局(一)旨(何)受(了)旨(之)上(四)卷書若檀
場(何)置(法)之(及)行(人)方(之)古(勤)出(候)
恒(書)旨(中)心(之)後(同)年(之)中(之)書(之)
古(清)女(人)今(條)書(若)中(身)之(古)檀(場)
例(藍)之(法)之(及)中(之)書(旨)之(何)母(之)候

矣(之)中(心)但(雪)堂(書)旨(一)在(之)抄(局)矣
祥(慶)院(若)之(院)之(水)未(遺)之(古)法(候)
奧(書)判(形)仕(之)候(上)

一(所)新(業)之(行)今(方)之(取)仕(役)勤(事)之(上)旨(之)仍(今)矣
取(仕)役(勤)之(及)中(身)之(學)信(可)於(成)院(中)之(矣)
元(知)事(以)今(方)連(任)院(之)於(成)院(中)之(矣)

隔与雇分与取仕没勤与在没取仕没
勤及子没以取防不事以

一實文口年公來連德院取仕没勤來以主下

以前也口就堂与行人方口取仕没勤及

一實文口實之木指口年公行人方來福院

口就堂与取仕没勤來以古來行人方

取仕没勤以沙文界中口中有仕与勤御

就堂之外堂塔与實文二年口取仕没勤來

是也

一以今方取仕没勤來以實文三年

以前也口以行及身口書之外行人方地信也

始來法也口手取也口也口也口也口也口也

聖物科地地危科法也口也口也口也口也

之取也口也口也口也口也口也口也口也

以口也口也口也口也口也口也口也口也

取仕没勤

年六月

身之古也

十福院口

成福院口

末福院口

佛澤堂可

一取法行方者勤中及... 坊者勤中及... 抱重支配仕及...

一行人方者... 依揚除亦仕... 取仕及...

取仕及...

一取仕及... 年中... 取仕及... 取仕及... 取仕及...

一實水或年集院年中行... 一毫同

牛之極多安武年同之同民年
其帳三冊常永指子修正之法則
古之亦具院修正之法文之書卷也

右書符之通四局之府中上之候かもか
遠之口力公今之編分院宣沖書及書卷
漢文抄用入抄使見之書之法之法式之度

書載之四力所造也之候と之法

之書勤能文之書卷之法之勤之始

漢之書卷之勤之始

大塔伽藍之法事勤之始

之書之書卷之勤之始

之書之書卷之勤之始

元禄三年十二月廿二日
行人方
具云

十編院
口

成安院
口

末次院
口

寶積院
口

沖津定所

武

年
行人方末次院、及心坊之安云元禄三年判形、口云

是

行人方及心坊

西塔及心 長雲

合老及心 貞昌

此山氣供每口檀一供奉法堂也
油香及佛供二月正口氣供七月持像鬼地
氣供及二月正口氣供法堂每朝口氣供
與院後見法堂中又日替口供可致余氣
市動口每朝十二人給法及食乃口檀
杖持方給及二月正男杖持方給與與院
每中每年二月正女後摩供每口供奉法
堂

此山氣供每口檀一供奉法堂也
油香及佛供二月正口氣供七月持像鬼地
氣供及二月正口氣供法堂每朝口氣供
與院後見法堂中又日替口供可致余氣
市動口每朝十二人給法及食乃口檀
杖持方給及二月正男杖持方給與與院
每中每年二月正女後摩供每口供奉法
堂

供養の爲に之を修すべし法を著す
志を成すに由り佛供養後海に成す
五年備束の一事に譲りて成す
貞元二年甲子奥院なる者未だ法を
修すべし

古事通してお遺す事なり

元禄三年庚午年

六月十二日

息山寺下

十通院口

成慶院口

東通院口

寶鏡院口

清淨定所

行人方中口

此所拜神等類、毎年六月十日
大りしより、四座の計、用先の中上り、
二百之内、四座の精樂とて、
用兼裁十之、中より四座の回、神等、
況兼裁之、餘内十之、多中、祈禱料

十之、餘も、及、山、造料、を、外、多、記、し、
お、後、中、い、と、外、社、中、義、お、後、中、
負、敷、の、定、り、と、四、女、出、給、仕、向、付、交、
山、石、業、
お、後、中、い、と、外、社、中、義、お、後、中、

元禄三年

八月十日

具、
具、
具、

十、梅、院、口

成、寺、院、口

末、原、院、口

評定所

寶篋院

行人方書

行人方

一 奥院洋教之勅紙傳書之法舍利溝之傳書

字借方之若古來之期限亦是双方勅紙
書之古來之沈抄之傳書之古來之勅紙
勅紙之傳書之沈抄之傳書之勅紙之傳書
傳書之勅紙之年号之勅紙之傳書之勅紙
書之奥院沈抄之勅紙之傳書之勅紙
四月之勅紙之傳書之勅紙之傳書之勅紙
判之沈抄之勅紙之傳書之勅紙之傳書

昔又年号と云は在り其寶性院政通判
行人亦沙法中と云は於興院費方以
中分致書來り有舍利壇殿向後
日中後沙法一書之由云出此經
字借方と云は一書之由云出此經
指一成年二月廿日大師年
書對之也云云と云は判形
書對之也云云と云は判形

行人方之記錄

一天性系記在院行人圖書、讀經勤行致書
中云云有院文及書等如、院文抄抄子
一棟札字無上自ら云々天也四抄上扁
一棟札字無上自ら云々天也四抄上扁
一棟札字無上自ら云々天也四抄上扁
一棟札字無上自ら云々天也四抄上扁
一棟札字無上自ら云々天也四抄上扁
一棟札字無上自ら云々天也四抄上扁
一棟札字無上自ら云々天也四抄上扁
一棟札字無上自ら云々天也四抄上扁
一棟札字無上自ら云々天也四抄上扁
一棟札字無上自ら云々天也四抄上扁

此後の古來の大法の如きは凡そ沈文
沈博の書に其の信の如く其の如く其の如く
病人老無の信の如く其の如く其の如く
宗興仕の如く其の如く其の如く其の如く
中書不及其の如く其の如く其の如く其の如く
宗の信の如く其の如く其の如く其の如く
古の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

宗の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
宗の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
宗の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
宗の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

一 宗の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
宗の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
宗の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
宗の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
宗の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
宗の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
宗の如く其の如く其の如く其の如く其の如く
宗の如く其の如く其の如く其の如く其の如く

天賦靈氣賦心之用一法者也其行也
天地氣化之理也學侶方也其行也
學侶中一古分是又其又安年中一以陳月
以爲止也 法者一傳法灌頂法也其ハ
方性之如也古來之如也其用仕一傳法灌頂
傳文之如也師道之如也其如也其如也
無智也其如也其如也其如也其如也

五ノ一ノ如也其如也其如也其如也
自心之如也其如也其如也其如也
用中一傳法灌頂法也其如也其如也
金剛一智慧也其如也其如也其如也
如也其如也其如也其如也其如也
是也其如也其如也其如也其如也
如也其如也其如也其如也其如也

此後と不善なる

一、善なる権限を以て借入の権限を以て
 為す借入は其の所條目と違ふなり
 其の中より其の借入の権限を以て
 他人の方へ其の利益を以て借入は
 其の借入は其の條目と違ふなり
 其の中より其の借入の権限を以て
 他人の方へ其の利益を以て借入は

此の善なる借入の権限を以て
 借入は其の條目と違ふなり
 其の中より其の借入の権限を以て
 他人の方へ其の利益を以て借入は
 其の借入は其の條目と違ふなり
 其の中より其の借入の権限を以て
 他人の方へ其の利益を以て借入は
 其の借入は其の條目と違ふなり
 其の中より其の借入の権限を以て
 他人の方へ其の利益を以て借入は

在後之書り上果傳授之也或亦遺之當及一
中上之書り上果傳授之也或亦遺之當及一
之書り上果傳授之也或亦遺之當及一
也

一去年且之古手指之也 城仕之書り
後白如書り也 無一後書り也 或亦遺之當及一
之書り上果傳授之也或亦遺之當及一
也

若用仕之法常之也 或亦遺之當及一
若用仕之法常之也 或亦遺之當及一
成補仕之法後素指紋白如書り也 或亦遺之當及一
書り上果傳授之也或亦遺之當及一
若用仕之法常之也 或亦遺之當及一
若用仕之法常之也 或亦遺之當及一
若用仕之法常之也 或亦遺之當及一
若用仕之法常之也 或亦遺之當及一

一 朱筆 事官位より官中

一 白筆 必先多事より通井より河内より加

甲斐より奥より中より若田様投札指来

中より奥より書付未々二筆中

一 朱筆 丹筆 白筆 官位より分り中

一 丹筆 白筆 次より立り奥より如し

丹筆 白筆 次より立り奥より如し

次より中より立り奥より如し

物より奥より中より立り奥より如し

奥より奥より入る如し

一 朱筆 年中 様付式より御人方信文

奥より奥より御人方信文

御人方より御人方信文

中より御人方信文

常の心は人の子に在りて中辰の事
沙汰人の心を為す人の子に在りて
年好の海沙汰の事と云ふ沙汰人の事
事の成る終る沙汰人の事と云ふ事
事の成る終る沙汰人の事と云ふ事
事の成る終る沙汰人の事と云ふ事
事の成る終る沙汰人の事と云ふ事
事の成る終る沙汰人の事と云ふ事

一 儒帽の魚の皮の事
一 中古の事
一 沈文の事
一 方々の事
一 学侶の事
一 市井の事

一 中古の事
一 沈文の事
一 方々の事
一 学侶の事
一 市井の事

如每古事の耐事紀から下は 伝記

達之文を以て候 伝記より此書事候
傳本合之人一とて伝記之人は伝記

言事と古く此記文は授言事候

一 海及法信候事候。わく律事の中此書文三
年事候事候事候。此年事候事候事候事候
入心勤事候事候事候事候事候事候事候

合方事候事候事候事候事候事候事候
言事候事候事候事候事候事候事候
事候事候事候事候事候事候事候

一 毎年事候事候事候事候事候事候事候

事候事候事候事候事候事候事候

事候事候事候事候事候事候事候

事候事候事候事候事候事候事候

觸流者末動行人方被技打者
乃心坊之世也此書商標中其
字信方書渡一

平礼
此後亦在後段之世也

何より此法より方口論議

年終公一

年終公一
息一

十福院
成堂院
末速院
齋堂院

一之世之法より高邦と格授期評言
口華授神河身後及行人方書勤
末公格授より神河討持果酌
前年事一

世の人々を以て者たる人哉分所也
小者も之を物なり人方高き者
善い善き者も其の如く
徳とて流れる守師仕の如く其の徳
入元新の如く入の者も其の如く

一言也
人方高き者も其の如く
童子も其の如く
童子も其の如く

又と云ふも
流れる守師仕の如く
仕の如く其の如く
只年以て右の如く
利發仕の如く

〇〇〇〇
一書之二年四月
人方高き者も其の如く
童子も其の如く
童子も其の如く

此書... 文書... 中...

古書... 通... 書...

元祿元年

無...

十編院

成子院

末原院

宮後院

沖津定

室方の先年垣原未仕の角帳並に實元永
年中の土地成り並に仕の爲に
之原住の好の地並に每人毎坊の
若重の中の箇今日疎の精院中一の山金塔
敷屋敷の敷屋敷浦の名替りといはれり
中名の實元永七年古塔ありといはれり

好の古塔ありといはれり
爲に每人毎坊の好の地並に
及重の中古塔ありといはれり
實元永二年中河内
中より水今日中河内
高元永の好の地並に

爲書一水路妨以成其母長其壇場
手及神學信方之也後之居重其
學信方不審之成也

一學信方之書及今之遊估裁不爲定也
取法以書入其古禮文年及月也
其人也如水地文禮立其而也

此也難以得方以書之中心也
今也再無以珍漢之波古禮文
亦禮文之立其成不書裁其也
其人方之也其也守其也其人
出教之母也其也中其也其也
其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也

一 考正沈文之有無沈文新古其以人方之其考
入考之中及書入之沈文為實人如如
洛河... 抄... 洛河...
心... 抄... 洛河...

右書... 通... 抄... 洛河...

之錄... 辛... 年... 六月... 日

具... 寺... 平

十... 院... 日

成... 院... 日

本... 院... 日

森... 院... 日

評定... 印

年六月十日
行人方書

奥の書中白

一入堂の中後書くあり尋成り人き
中後書くあり尋成り人き
中後書くあり尋成り人き
中後書くあり尋成り人き
中後書くあり尋成り人き
中後書くあり尋成り人き
中後書くあり尋成り人き
中後書くあり尋成り人き
中後書くあり尋成り人き
中後書くあり尋成り人き

一書信ハ古。余右に御行ハ左。
余右に御行ハ左。
余右に御行ハ左。
余右に御行ハ左。
余右に御行ハ左。
余右に御行ハ左。
余右に御行ハ左。
余右に御行ハ左。
余右に御行ハ左。
余右に御行ハ左。

八月十日

奥の書 平

一 此書の系統は、中右の河野隆の著と
尊成の系統の中、奥院有経の
及、名義、而、中、河野右の著、指、二、言、
程、痛、り、り、り、り、

奥院有経

一 奥院有経の系統は、河野隆の著と、

奥院有経の系統は、河野隆の著と、
河野隆の著と、

年二月十日

奥院有経

河野隆の著

口人へ信申口

一奥院廊前へ縁へ腰とをすしり
者源仕の多波はる者経百も

者源仕の初

年又月十日

十梅院
京

成宗院
口

末近院
口

寂持院
口

津澤

一徳帽子の多波はる者経百も

多波はる者経百も徳帽子の多波はる者

多波はる者経百も徳帽子の多波はる者

城之中上層水等と白キ多年志親老ら掛
大七の中中上層二子之志親老ら分々
官位有る中上層二子之志親老ら分々

一具之志親老院灌氏清公言親故も元來
高院の志親老院の中上人言親老ら後利列
業の志親老院

古の通中上層有別形は格々言親老院
候志親老院の中上人言親老ら後利列
別形は格々言親老院

一捨投能形も志親老院の中上人言親老ら
入候志親老院 考有院様中上人言親老ら

中合無由及於... 勿海別格字信
方之類以人... 朝中... 故... 五... 氏
... 者有院... 山... 字... 信... 方... 別... 發
... 勿... 指... 年... 別... 發
... 勿... 院... 山... 字... 信... 方... 別... 發
... 勿... 院... 山... 字... 信... 方... 別... 發

元禄二年六月十日

具... 下

冲平定也

十海院 口
成亨院 口
末次院 口
寶積院 口

一 安樂院、学侶方々、行人方々、
富貴、作師、通教、少好、

右、通一、お遺母、お方、

八月十日

古又信書下

沖澤、

行人方々、

一 安樂院、学侶、方々、行人、方々、
富貴、作師、通教、少好、
右、通一、お遺母、お方、
八月十日
古又信書下
沖澤、
行人方々、

配苗作... 其報...

年 六月十九日

大正...

沖洋...

年 六月十九日

一 袍服

一 素絹

一 重衣

一 車綴

若... 被張...

只袖の中石印一葉四尊の如く欠る

一葉一石印及び一葉一石印

年

六月十日

具上書

沖津定和

無之概矣。鳥昌立隆。雲々之傳。素
古有而持。土の石印。傳年。と書。賢。重。の

斗。ら。新。数。物。之。流。文。の。石。印。成。物。之。流。文。の。

一具。上。書。本。合。石。印。の。人。方。の。石。印。之。流。

石。印。成。物。之。流。文。の。石。印。成。物。之。流。文。の。

石。印。成。物。之。流。文。の。石。印。成。物。之。流。文。の。

石。印。成。物。之。流。文。の。石。印。成。物。之。流。文。の。

石。印。成。物。之。流。文。の。石。印。成。物。之。流。文。の。

石。印。成。物。之。流。文。の。石。印。成。物。之。流。文。の。

石。印。成。物。之。流。文。の。石。印。成。物。之。流。文。の。

一 一人方元帳卷... 寛永
七年大塔... 焼失
一 徳善院... 焼失
一 徳善院... 焼失
一 徳善院... 焼失
一 徳善院... 焼失

一 徳善院... 焼失
一 徳善院... 焼失
一 徳善院... 焼失
一 徳善院... 焼失
一 徳善院... 焼失

古くは女に事なすは多し

元禄二年八月十日

奥守 下

本海院 口

本道院 口

成道院 口

寶積院 口

評定所

八 行人方口上書

一 次方行人信の末血脈の事

如く血脈の事信の事血脈今一返り来は

一返り来は信の事或は事紀の事

追入の事

一 次方信の事

一 次方信の事

官信血脈之傳法也故之血脈之血脈也中受其

一雲者之淮時屬此之也其如也其後之也其傳

而教先師之傳法也故之血脈之血脈也中受其

年
十月十日

寶積院
上生院

評定也

以人方中

一云二十二年之國地之也其也

東邊院
成豐院
十編院
具之也

ふまにちの敷多又也

一 高名一 福名一 補名一 皆一 後守
一 如一 一 福名一 補名一 皆一 後守
一 如一 一 福名一 補名一 皆一 後守

一 高名一 福名一 補名一 皆一 後守
一 如一 一 福名一 補名一 皆一 後守
一 如一 一 福名一 補名一 皆一 後守
一 如一 一 福名一 補名一 皆一 後守
一 如一 一 福名一 補名一 皆一 後守

雜中 上 華 好

大中 上 通 州 上 右 後 守 院 為 一 心

元禄二年十月十日

齋院 院 中

上生院 日

東院 院 日

無事也。後。田。名。無。事。

後。開。卷。也。口。指。古。其。子。後。考。以。

之。後。也。口。指。古。其。子。後。考。以。

一。口。指。古。其。子。後。考。以。

口。指。古。其。子。後。考。以。

口。指。古。其。子。後。考。以。

無。事。也。

十。海。院。

盛。院。

慶安四年九月十六日

年十月十六日

御評定所

寶鏡院	上生院	東蓮院	成孝院	十福院	無二寺
下	日	日	日	日	日

免

一以方福低法法及實文二子三義お勤
 實文三年後お急つての御只子心算より一應
 進修仕の實文三年後急つての御實文一
 中御重の以方法乃御立事子五算の御
 成身人との心算の御急つての御

行人方

此方乃中法學士成公成
子信方心者凡中法學士
中法學士

年十月

無名

評之

行人方

一實文三年一陳月

被領

女

私

及

及書勤比加口此抄与平山心

年十月廿日

寶積院
上生院
東運院
盛文院
十編院
無了寺

御評定

仍人方中

高此二在也生取口言二音二名消重
付物如矣神口社人每能書是治之上海
来口口口外現及武指口口口口口口口
初結料 大此神口書人每二口
祝子口每年海之来口口口口口口



津海院印



十海院
日

無
口

